



## 農園と森オシアンクル

2023年度

HCSA (Hores-Community Supported Agriculture )

会員募集！

馬と共に森で遊び、田んぼで米づくり。

馬と共につくる田んぼが真ん中にある1年間を通して、  
季節と、時間と、人と、自然と、生き物たちと・・・  
様々に繋がり合う暮らしと生きる力を分かち合います。



田んぼのよろこびを何にたとえたらよいだらう？

一粒の米が芽を出して光に向かってすくすくと育ってゆく。

田んぼの中やあぜを歩きながら、心は自由に動き回り、ときには蛙になり、蜘蛛になり、そしてときには土の下に潜り込み稲の育ちを思う。



見守るうちに季節はどんどん変わってゆくその変化の中を、

田んぼに蠢く無数の命たちと共に生きる感覚。

沢から流れる水は空気を動かし風をうみ、血管のように隅々にエネルギーを回していきます。

人間は、その流れを診て、

滞りがあれば手を当てて少し流れを促す、

それは身体の話ととても似ている。

作物を育てているようでいて、実は自分が育てられていて、

作物を癒しているようでいて、実は自分が癒されていく。



やがてむかえる黄金色の季節には、また自分も1年分熟していて

うまくいくときも、いかないときも、1年分の身体の記憶が蓄積されていく。

「また、来年。」

ただただ、その繰り返しのうちに潜り込み、つながっていく。

きっと、これまでの100年も、

これからの100年も、そうやって。

私たちは馬と働くよろこびはもちろん、

この田んぼのよろこびを分かち合い、

健やかな土と水と営みを未来に繋げていきたいと考えています。



## ぐるりと繋がる馬と田んぼの暮らしと仕事

### 4月「苗づくり」

昨年収穫の種粃を土におろし、新しい年の米作りのはじまりです。  
苗床の土には今年の米の粃殻をくん炭にして使います。  
田んぼでは苗代づくり、馬耕作業もはじまります。



### 5月「馬耕・代かき・田植え」

苗の育ちを見守りながら、田んぼ準備。  
おこして水を入れ練り、ならす。  
全行程で馬たちが大活躍、  
1番忙しい季節です。  
準備できた田んぼに、苗をひとつひとつ  
おろしていきます。

### 6月～8月「田の草取り・水管理」

ひたすら稲の育ちを見守ります。  
田んぼに入り足音を稲たちに聞かせながら、草取り、水の流れ、  
必要に応じて手当をします。  
この時期は畑の馬耕が終われば馬たちは森へ。  
生い茂る熊笹を食べて森林整備の一端を担ってもらいます。



### 9月「稲刈り」

刈り取った稲はハザ掛けにして天  
日乾燥させます。





### 10月「脱穀・秋おこし」

秋の長雨が来る前に脱穀をします。

稲藁は、馬小屋の2階にしまっておいて年間を通して馬小屋の敷き藁に使います。

ここで馬糞と混ざり良い堆肥ができるのです。

藁細工用にも少しわけてもいい、しめ縄や、箒、鍋敷き、かごなどの暮らしの道具に。

稲刈りが終わった田んぼは一度起こして天地を返します。

### 11月～3月

「藁細工・餅つき・麴づくり」

馬小屋では日々堆肥が作られ、人は日々お米を頂く。

稲藁も、脱穀して出た粃殻も、精米して出る米糠も、全て次の年の土づくりへと繋がり捨てるところがありません。

雪に閉ざされる冬には、

新しい春を待ちながら手仕事をして豊かな暮らしを彩る道具がうまれます。

麴は、甘酒やお漬物、お味噌作りなど様々な活用されます。



・・・そして。「さあ、また、新しい春です！」

## 馬とつくる森・それぞれの『森の生活』



自らの「生きる」を自ら作り出すことができる自由を  
ほんとうは誰もがもっていて  
そして、それを存分に発揮できる場を求めている、と感じています。  
例えば森に入って木を見つけて、器やカトラリーなど、  
暮らしの道具をナイフで削り出す。  
絵本「3びきのこぐま」のように、必要なものをそのときにあるものでうみだす。  
ネットで探すのではなく、お店で買うのではなく、森で、材料となる木を探して自分の  
手と想像力を使って姿を表した道具を、自分の暮らしの中に持ち帰り使うというそ  
の一連の時間の流れはなんとも言えず贅沢なものです。



いびつでも、少々使いづらくても、この感触はどこまでも清々しく自由です。  
使いづらかったら、また森へ行き、前の失敗を踏まえて自分の手と想像力を  
もう一步前進させれば良いだけのこと。  
前回作った「失敗作」は煮炊きや暖房の薪にもなるでしょう。  
手にはそのたびに経験が蓄積され、森も暮らしも少しずつ豊かになる。  
豊かさのベクトルは「成長」ではなく、「循環」です。  
その繰り返しが、まさに暮らしそのもの。  
人はもっと美しい仕事をする自由と技を手にすることができる、  
そのことをおおらかに後押ししてくれるのが森の存在です。  
森は、いつでも大きく手を広げて、様々なチャレンジを受け入れてくれます。  
その営みが先の世代まで続いてゆくように、馬と豊かな森づくりをしながら  
それぞれの「森の生活」をつくっていきます。



## 森でできることあれこれ

—いつでも森に、遊びに来てください—

しいたけのホダ木づくり、山菜・きのことり、木工、メイプルシロップづくり、  
食べられる森（フードフォレスト・フォレストガーデン）づくり、  
キャンプ、野宿、川釣り・・・。



## HCSAについて・年会費とシェアの内容



CSA-Community Supported Agriculture-

(地域支援型農業・地域協働型農業)とは、

生産者と会員が直接つながることで支え合い、

農業・食べもの・食文化・環境などを守りながら、

小さな経済圏での循環型経済を目指す仕組みです。

私たちの場合、その頭に「H (Horse)」が加わり、

働く馬、馬と働く人・文化・技術を

未来に繋げていくこと、

リジェネラティブ（環境再生型）な有畜複合農業のあり方の探究に力を注ぎます。

その理想を共に支え育てていくのがHCSA会員制度です。

年単位の先払いが基本になり、

会員（消費者）は決まった金額を支払うことで

リスクもシェアすることになります。

また、作る人と求める人が直接繋がることで

販売のための広報に関わる物事、エネルギー、

個別の包装などのコストからも自由になり

それらの支えにより私たちは市場競争経済のループの外に出ることができ

- ・エネルギーの高い健やかな食べ物を作り届ける
- ・働く馬の育成と、馬と一次産業で働く人を育てる
- ・土を育て、森や水を守り次世代に繋ぐ

に専念することができます。

また、会員は農場へいつでも来ることができ

農園の運営に関わり、年間を通しての農的暮らし、

馬との暮らし、馬と共に働くこと、

自然と共生する暮らしなどの学びをシェアします。

### 2023年度HCSA会員（2023年4月～2024年3月）

○田んぼ会員 60,000円/年 →馬耕米ゆきひかり（11月）

馬耕米でつくる玄米餅「馬力もち」（12月）

ゆきひかり満月麴（2月）

ニュースレター「オシアンクル便り」(毎月)

季節のめぐみ(不定期)

イベント(収穫祭・お餅つき・音楽祭など)への参加

※お米の量について

シェアするお米の量は収量によって変動しますが、

だいたい20~30kgくらいの予定です。

※馬耕、田植え、稲刈りなどの作業の予定、

各イベントのご案内は随時会員専用LINEにてお知らせします。

(ですが、基本的に農園へはいつでもウェルカムです!)

作業に参加希望で遠方の方の宿泊はご相談ください。

○森会員 30,000円/年

馬とつくる森会員は

森での活動を支援・参加していただく会員になります。

オシアンクルには田畑の先に車は入ることのできない

小島のような素晴らしい森があります。

そこに果樹の苗木を植えたり、風倒木を馬搬で運びだしたり

生いしげる熊笹を、馬たちを森に放牧することで程よく除草して

豊かな森を育てることを目指して整備しています。

→自分の森を持つ、いつでも森へ!

メイプルシロップ、ホダ木、木工用の馬搬材など

馬と暮らすように泊まる森の中のタイニーハウス

「タイニー曲り家」(2023年初夏オープン予定)の宿泊割引

○田と森会員 85,000円/年

○賛助会員 10,000円~ →ニュースレター「オシアンクル便り」

